令和7年度　緑区地域活性化支援事業　交付団体一覧

交付団体数（Ⅰ地域づくり活動支援コース　6団体　　Ⅱ区テーマ解決支援コース　2団体）

Ⅰ　地域づくり活動支援コース

No	団体名	代表者	活動・事業名	事業の目的	取組内容	実施場所	期待する効果・成果	交付額（円）	審査コメント	備考
1	ふぁんプラネット	谷村　夏子	地域・多世代交流コミュニティスペース運営（カフェ、ワークショップ、マルシェ）	R6年度の緑区地域活性化支援事業において、ふぁんてらすの活動を月に1回計12回のコミュニティスペースの運営・開催を実施してきました。また、R6年6月には古民家を活用した地域の方々に向けたマルシェの開催も実現しました。 1年間を通して、壁にぶつかることも多くありましたが、このような活動がとても重要であり、ここがあってよかったと思ってくださる方がいることも体感しました。 来年度も引き続き、集団（学校・会社）や家庭で心の不安や生活面での不安を感じる方、周囲とのコミュニケーションができづらい方、独居の高齢者、ワンオペ等で疲弊しているママたちに向けて、根気よく居場所があるということを発信し続け、その方たちの息抜きの場の一つになるようなコミュニティ運営を目指していきたいです。 また昨年度の経験から、継続性とともに多様なニーズにも運営者側が対応できるような体制づくりも大切だということを学びました。今後は、毎月の活動以外にも地域の居場所を提供できる仕組みを構築していこうと考えています。 運営側、参加者、協力者すべてがこの事業の対象となりうる人であり、参加の形は様々です。同様の活動をしている方・団体も地域にはいると思いますので、横のつながりもさらに広げつつ私たちにできることを積み重ねて行きたいと思います。	今年度と同様の活動および不定期開催のイベント・マルシェなど地域の居場所作りを目指します。 地域・多世代。このふたつはとても抽象的であり、活動の的を絞ることが難しい側面もあります。しかし、これはふぁんプラネットの理念の根幹となるワードです。 この根幹をブレずに、継続して実施予定である毎月1回開催の「ふぁんてらす」ではワークショップを伴うコミュニティスペース運営を、そしてさらに来年度以降は、地域のイベントやマルシェなどを通して地域の一粒になるような場所を作ることを企画・運営予定です。	千葉市緑区おゆみ野　鎌取コミュニティセンター　など他、緑区内スペースを探し、開催検討中。	老若男女、横のつながりが当たり前のようになっている地域。いわゆる隣組のような関係性ができ、気づきや支援の手が落ちる方が出ない地域となること。（ちょっと醤油貸して！と気軽に言える関係の構築）	200,000	・居場所づくりに取り組む中で、様々な壁に直面しながらもニーズに応じた検討や他団体との交流に熱心に取り組まれていることを評価します。 ・誰もが気軽に立ち寄れる場所として、広く認知されることを期待します。 ・多世代交流を柱にしながらも、様々なニーズに沿ったワークショップ等の開催も検討してください。	【2年目】
2	ハイジ＆どらごん	宮崎　令子	こども食堂と学習支援	穏やかに見える地域ですが、民生委員の活動や社協の活動の中で、この地域の家庭・こどもの問題を見聞きする機会に触れ、勉強したくても環境が整わない子、孤食の子、貧困、虐待、働くお母さんの疲労などを少しでも減らすために自分たちでできることを考えました。 地域のこどもが気軽に行ける居場所づくり、地域のいろいろな世代のつながりに貢献していきます。 どらごんが学習支援、ハイジがこども食堂です。	(どらごん) 毎月第1、2、4木曜日　鎌取コミュニティーセンターで学習支援教室を開催 17:00～20:00　※小学生は18:00まで 毎月第3木曜日　県営住宅集会所でハイジの配達お弁当を食べてゲームなどをするこどもの居場所づくり (ハイジ) 毎月第3木曜日　おゆみ野公民館調理室でこども食堂を開催 17:00～19:00 どらごんへのお弁当配達	鎌取コミュニティセンター 県営住宅集会所 おゆみ野公民館調理室	こどもにとって、学校・家庭以外に顔や名前を知っている大人の存在ができ、頼れること、助けてもらっていいことを感じられるようになるといいと思います。 いろいろな世代の人が交流できる場所が多くなることを期待します。	200,000	・地域のニーズに沿った、子どもの育成支援につながる内容であることを評価します。 ・事業を継続していくために、食材費等の財源確保に努められることを期待します。 ・活動を継続・拡充するために、少しずつでもスタッフを増やすことを検討してください。	【新規】
3	四季の道フォーラム	吉田　勇	遊歩道の魅力再発見プロジェクト・パート1	緑区おゆみ野地区は、1984年のまちびらきからすでに40年経過した。一時は人口増が続き活力のある街であったが、近時人口減に転じ少子高齢化による諸問題、例えばお年寄りの孤立化などさまざまな問題が顕在化している。併せて地域のことを学ぶ機会の減少によりおゆみ野の豊かな自然や歴史についての記憶も継承されることなく消えつつあるように思われる。さらに言えば地域で活動する諸団体のたこつぼ化現象も残念ながら見えなくもない。 私たちは次の課題解決を目指します。 ①高齢層、子育て世代など年代を問わず孤立化の解消 ②地域の魅力再発見による地域愛の醸成 ③地域で活動する諸団体のノウハウの共有資源化	私たちは、おゆみ野の遊歩道のべ約24kmとそれにつながる公園緑地の潜在的な魅力は極めて高いと考え、これの再発見のための諸行事を通じ、年代を問わず地域住民の外出機会そして学びの機会をつくります。これらによって得られる緩やかな人間関係および地域組織間の連携は新しい街づくりの重要なエネルギー源になると考えている。 ・さくらさくさくウォークラリーの実施 ・四季の道に樹名板をつけよう！（四季の道　約400本　2年計画） ・四季の道の魅力再発見ツアー（ウォーキング、サイクリング） ・四季の道の魅力再発見シンポジウム ・広報誌（四季の道フォーラム通信）の月刊体制発行（四季の道の魅力発見） ・HP、SNSにより四季の道の魅力発信	緑区おゆみ野地区内の遊歩道及び公園	おゆみ野の遊歩道の現状は、ただ単に安全に移動するための場だけになりつつある。それを「そこに行けば誰かに会える／話の輪がある／美しい景色がある／せせらぎの音が聞こえる／子どもの頃の思い出がよみがえる／誰かが何かをやっている人の営みがある」存在としての遊歩道に生まれ変わり、地域の人々の心安らぐ空間とすることが、最終目標であるが、初年度活動後はこれらを実感できる人々が多くなり、遊歩道が賑わうようになる。	200,000	・地元の誇れる資源を有効活用する取り組みを評価します。 ・年間を通じて、幅広い世代が楽しめる企画を期待しています。	【新規】
4	カフェたんぽぽ	中坪　紀子	認知症当事者・フレイル高齢者のエコバッグ作成による社会参加	令和6年1月に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の基本的施策である「認知症の人の社会参加の機会の確保」を、「新聞紙等の再利用によるエコバッグの作成と地域における活用」を通して行う。 また、認知症当事者やカフェたんぽぽの参加者に限らず、地域とのつながりが少ない高齢者が、エコバッグの活動を通して社会参加する機会が増えることで、地域が活性化することを目指す。	・「地域リハビリテーション活動支援事業」を活用し、カフェたんぽぽ内で作業療法士によるエコバッグの折り方に関するワークショップを開催する。 ・あんしんケアセンターや民生委員の協力を得ながら、エコバッグ活動の周知を行い、エコバッグを作成する高齢者を増やす。 ・地域の施設やイベントでエコバッグを活用してもらい、その様子を作成者にフィードバックすることによって活動の維持につなげる。	キッズクラブおてんとさん（カフェたんぽぽ開催場所）・土気地域	認知症高齢者やフレイル状態の高齢者が、役割を持つことによって、認知症状があっても穏やかに過ごせる時間や、地域とのつながりが少なくても社会参加する時間が増えるような地域になること。	155,000	・認知症・フレイル予防につながる取り組みとして高く評価します。 ・積極的なPRにより、活動が地域全体に広がることを期待します。 ・消耗品費が高額であることから、積算内訳を考慮し一部減額とします。 ・継続的な運営のために、経費の縮減と今後の資金調達を検討してください。	【新規】
5	Tsumugu Toke　～紡ぐ土気～	米澤　美紀	人と森《地域の人たちが繋がれる場としてのマルシェ開催》	土気地区はそれなりの人口を抱えるものの、ベットタウンとしての色が濃く、人と人との繋がりが薄いように感じます。 これまでの経験から、繋がることで私たちは強くなれることを実感していますが、それはつまり、繋がることで地域も強くなるということ。 マルシェというツールを使い、楽しみながら地域のみんなが繋がれる仕掛けづくりをしたいと思っています。	土気にて定期的（月1回）にマルシェを開催します。 美味しいものや素敵な作品のお店だけでなく、サイズアウトした子どもの服や使わなくなったおもちゃの交換会や、中学生や高校生が出店するブース、地元の生産者さんや飲食店の出店や、地域の情報交換ができるブース、「まちの保健室」のような相談できるブースなども設けたいと思っています。 また、地元の飲食店さんに出店してもらい、地域を活性化させたいと思います。	土気地区あすみが丘の公園	・地域に住む人たち同士の交流が増え、人と繋がることで安心感が持てて楽しく暮らせる地域になることを期待します。 ・チェーン店にはない地域のお店の良さが伝わり、地域が活性化することを期待します。	200,000	・古くから暮らす住民と新住民との交流や価値観の共有の場として、マルシェ開催は良い取り組みであると評価します。 ・出店者間の連携を図り、運営体制の強化や地域活性化の動きにつながることを期待します。	【新規】
6	一般社団法人Trinity Nest	三浦　太陽	あすみが丘バーズモールを起点とした賑わいと若者の居場所創出	土気駅南口にあるあすみが丘バーズモールは空き店舗が多くなり、土日祝であっても閑散とした状況である。 また、バーズモール内に土気駅を利用する高校生などが立ち寄るスペースもないため、現状では駅の利用とモールの利用が有機的な繋がりを持っていない。 こうした状況を踏まえ、駅の利用とバーズモールの利用を結びつけ賑わいを創出しつつ、若者の居場所を構築するための準備を進めていく。	①バーズモールに賑わいを創出するため、敷地内でのワークショップやイベントを実施 ②ワークショップやイベント実施を通して、バーズモールや土気駅利用者の意向調査（店舗の利用頻度・目的・若者の居場所創出に関する意見などの収集） ③学生を中心としたユース世代の居場所創出を実施している団体と連携し、②で収集したデータを基にバーズモール内の空きテナントを活用したサードプレイス構築の可能性を検討 ④①～③の取り組みを通してバーズモール店舗組合内の関係性を強化し、テナントが一丸となった賑わい創出する体制構築	あすみが丘バーズモール	・バーズモールと土気駅利用者の有機的な繋がり（駅からバーズモールを利用する動線ができている状態）が発生し、賑わいが徐々に増える ・バーズモールや若者が滞在できる拠点についての意向調査によってデータが蓄積され、データを基に次年度の計画を策定できる状態になっている ・本取組が端緒となり、バーズモール店舗組合や管理会社が将来にわたっての賑わい創出や若者のサードプレイス構築に対して理解及び積極的に協力する体制構築が進む	200,000	・若者世代をターゲットにしたこれまで取組事例のあまりなかった内容として評価します。 ・土気駅至近にありながら利活用されていないスペースが活気ある場へと変わるための実験的な取り組みとして意義あるものと考えます。 ・若者世代が自分の「好き」を見つけ、学校以外での体験、つながりができる場として継続運営されることを期待します。	【新規】
							小計	1,155,000		

Ⅱ　区テーマ解決支援コース

No	団体名	代表者	活動・事業名	事業の目的	取組内容	実施場所	期待する効果・成果	交付決定額（円）	収入の内訳	備考
7	土気ふる里つむぐ会	三浦　太陽	土気地域の歴史資源に関する情報発信及びプラットフォームの整備	土気地域には歴史資源が豊富であるが、地域住民に広く浸透はしていない状況である。 そのため、将来的に歴史資源の維持管理や存続についても危うくなると推測される。 貴重な歴史資源を含めてまちの情報を広く発信し、地域住民の興味関心を高め、まち全体の活性化を目指すものである。 同時に、歴史資源を通して関係人口・交流人口創出の端緒としていくことも狙いである。 また、令和6年度の取り組みの成果を基に本事業のブラッシュアップを図り、開府900年の認知向上及び期待感を高める。	①昨年度整備したHP（プラットフォーム）のコンテン拡充を進めつつ、既に稼働しているSNSと連動して幅広く歴史資源について引き続き情報発信を実施。 ②土気城及び猪鼻城のフィールドワークを実施し、リアルに歴史資源に触れ体験する機会を創出する。 ③緑区ふるさとまつりに出展し、地域の歴史資源や会の活動について訴求する。また、ブースへの来訪者にアンケートを実施し、地域住民の意向や歴史資源の認知度などについてデータベース化を進める。 ④SNS、HP、フィールドワークを通して開府900年の訴求。 ⑤大椎城や土気城の御城印が未発行なため発行に向けての現地調査を開始する。	千葉市内（猪鼻城フィールドワーク以外は基本的に緑区内での実施）	・地域住民の生活圏内に多様な歴史資源が多数あることの認知が更に広がり、地域への理解が深まる。 ・土気地域には豊富な歴史資源があり、かつ千葉県全体として見ても歴史的に非常に重要な地域であったことへの理解が深まり、地域への愛着や誇りがより強くなる。 ・地域住民同士の新たな繋がりや絆が生まれ、次世代へ歴史資源を引き継いでいきたい気持ちが高まる。 ・歴史資源を通して他地域からの人流が活発化し、まち全体が活性化する。 ・開府900年の認知が高まり、2026年への期待感が醸成される。 ・地域内での連携が生じ、より効果的な取り組みを実施できる体制が構築される。	200,000	・歴史資源の認知・理解を地域に広め、地域のつながりを強め、活性化を図る取り組みであることを評価します。 ・地域の魅力の再発見のためのテーマを発信し、息の長い活動となることを期待します。	【2年目】
8	千葉市立おゆみ野南小学校　おゆみっこの家	船田　伸枝	おゆみっこの家	長期休暇に一人で家にいる子どもたちの居場所作り。 地域の大人たちと子どもたちのコミュニケーションを作る場。	宿題の補助 レクリエーション活動 居場所作り	千葉市立おゆみ野南小学校内	子どもの居場所作りが増える。 子どもと大人のコミュニケーションが増える。 自由課題の活性化により、子どもの趣味・特技が増え認められてうれしい感情を育み、人間関係の構築に繋げる。	200,000	・長期休暇中も子どもが放置されないための環境づくりに注目し、学業や生活の孤立化を防止する取り組みは、重要な取り組みであると評価します。 ・子どもの育ちを支援し働く親の不安を軽減するために、継続した活動となることを期待します。	【新規】
							小計	400,000		

全コース交付額合計　　1,555,000　円